

平成23年度 海域の物質循環健全化計画三津湾地域検討委員会（第2回）

第1回検討委員会指摘事項に対する対応内容

委員名	指摘事項	対応内容
(3) 地域の物質循環に係る情報整理について		
高橋委員	浅海定線調査では過去30年程度のデータが揃っている。それらを手入して水温の変遷をみることが望ましい。	(地域WG事務局) 浅海定線調査のデータを手入して、水温の変遷を整理した。→資料-1 p.14
樽谷委員	物質循環モデルによるシミュレーションでは、人工海岸と自然海岸の区別を考慮しているのか。	(統括委員会事務局) 現時点の想定モデルでは考慮していない。地域WGの意見を踏まえて構築するモデルを検討していく。
高橋委員	海域への直接的な負荷については工場排水等の状況も押さえて、モデルの中で考慮すべきである。	(地域WG事務局) 東広島市環境部局と相談の上、工場排水等の負荷を収集・整理した。→資料-1 p.8
山本委員長	アマモが繁茂したこととカキの身入りが良くなったことは、モデルの中で関連づけることはできるだろうか。	(統括委員会事務局) モデルでのカキの成長や死亡のファクターは、水温、植物プランクトン量、酸素の3つ。アマモについては、栄養塩、水温、日照である。
濱浪委員	三津湾のアマモ繁茂状況を図に示した。検討に使ってもらいたい。	(地域WG事務局) 検討材料に使わせていただく。→資料-1 p.19
山本委員長	アサリが育つための底質の詳細条件、とくに微量に存在するような物質に関する報告はほとんどない。今後の検討課題である。	(地域WG事務局) 今後の検討とする。
斉藤委員	アサリの浮遊幼生密度についての情報は、瀬戸内海区水研の浜口先生なら把握しているかもしれない。	(地域WG事務局) 浜口先生に確認の結果、三津湾周辺でのアサリ浮遊幼生に関するデータはないことが判明した。
山本委員長	食害についての定量化は検討できないか。	(地域WG事務局) 今後データを収集して検討する。
高橋委員	過去と今の底質の変遷を調べることは可能か。	(地域WG事務局) 今年度業務では柱状採泥試料を2cm毎に層切りして保存する。今後の調査内容を地域WGで議論し、次年度の調査内容を提言する。
山本委員長	水質CODデータの経年変化図(資料-3、12頁)は、沖側が高くなっているが正しいか。	(地域WG事務局) グラフを間違えていたため、資料の修正、差し替えを行った。→資料-1 p.15
(4) 平成23年度現地調査について		
高橋委員	貧酸素水塊の把握は、機器を設置した連続観測のほうがよいのではないか。	(地域WG事務局) 今後の調査内容を地域WGで議論し、次年度の調査内容を提言する。
樽谷委員	混合期でのセディメントトラップ調査は、まき上がった堆積物を補集することも考えられる。沈降物との切り分けは難しいのではないか。	(地域WG事務局) カキ養殖筏直近にセディメントトラップを設置し、できるだけ養殖筏からの沈降物の補集に努めた。
紙本委員	カキ養殖は季節的な現存量に変動がある。カキ養殖は給餌がなく環境負荷型の養殖ではない。養殖現存量については、漁協等から情報を得た解析が必要である。	(地域WG事務局) そのように対応する。
谷本委員	アマモ分布は漁協に聞きとりを行って状況を把握し、何点かで潜水調査を実施すればよいと考える。	(地域WG事務局) 今後の調査内容を地域WGで議論し、次年度の調査内容を提言する。
山本委員長	漁協からの情報を使って、アマモの繁茂密度を調べるのが望ましい。	
斉藤委員	カキの食害時期を漁協から聞き取り、今後の調査を考える必要がある。アサリについてもビデオ撮影ができれば、アサリ食害も把握できる。	(地域WG事務局) 今後の調査内容を地域WGで議論し、次年度の調査内容を提言する。